

1 学年第 1 時 「わたしのジャガイモ」 自己開示

* 書籍に載っている掲示物は白黒です。

わたしのジャガイモ



新しい初めての班でちょっと変わった自己紹介！

オイラの名前は、じゃが太郎！！みんな、よろしくな。



ぼくの夢はおいしいじゃがバターになることさ！！

自分のジャガイモをじっくり観て・・・



一度集めたジャガイモたちの中から自分のジャガイモを探します！



- ジャがいもについて考えたとき、ものごとを考えることは楽しいと思った。
- 前に出て発表してくれた人たちの自己紹介が、よく考えられていてとてもおもしろかった。
- いろいろなじゃがいもが、いろいろな人によって違った紹介をされ、とてもおもしろかった。
- 自分のジャガイモがすぐにわかって、ビックリした。
- みんな一生懸命になりきっていて、楽しかった。
- 同じジャガイモでも、みんな全く違う自己紹介をしていて、ビックリした！
- ジャがいもの特徴を探するのはすごく楽しかった。世界に同じ形のじゃがいもがひとつもないから、自分のじゃがいもは大切に食べたい。

1学年第1時 「わたしのジャガイモ」支援プラン 自己開示

【エクササイズ (E X) & 準備物】

- ウォーミングアップ「モデリング」 : ジャがいものかぶり物
- メインE X『わたしのジャがいも』 : 男爵いも (人数分)

【ねらい】

中学校入学直後、希望と不安にあふれた子どもたちへの人間関係プログラムの初披露である。教員のモデリングを通じて、子どもたちに自己開示することの楽しさや心地よさを体験してもらう。ジャがいもになりきることにより、容易に自分自身の新たな個性を発見し、他者の個性に出会うことができる。

【概要】

教員のモデリングからスタートする。ジャがいものかぶり物をつけた二人の教員によるモデリングである。会話の内容は二人のジャがいもの出会い。夢を語ったり趣味を語ったりする。自分に関する事実をしゃべる必要はない。あくまでもジャがいもとして会話をする。ジャがいもをしっかりと見つめ、観察をし、会話が始まる。子どもたちは何が始まったのかと、驚きを隠せない。しかし、配布された自分のジャがいもを見つめ、語り始めるジャがいも (子ども) たちの個性は豊かだ。グループでの自己開示後、ナイスなジャがいもさんに全員の前で語ってもらうのが良い。終了後、全員のジャがいもを集め、ひとりずつ自分のジャがいもを探してもらう。すると、不思議なことに、子どもたちは自分のジャがいもを探し当てることができる。

【流れ】

	活動の流れ	留意点・教具等
ウォーミングアップ	『わたしのジャがいも』 教員二人のモデリングを通じてデモンストレーションを行う。 その内容 (名前、ニックネーム、チャームポイント、好きな食べ物、好きな色、家族構成、好きな言葉、願い等) 例)「僕は、北海道生まれのジャガ夫さ。夢は、とてもおいしいポテトチップになることさ。・・・」 *かぶり物の画像はHPからダウンロードできます。	○教員どうしのモデリングの時に使用するジャがいものかぶりもの一対 ○教員と子ども全員分の男爵いも (メイクインだと判別しにくい。大きさや形が不揃いのものを選んだほうがよい。) ○教員がしっかりとジャがいもになりきる。
エクササイズ	①班に配られたジャがいもを一つ手に取り、ジャがいもをしっかりと見つめながら、自己紹介を考える。 ②班の中で、ジャがいもを見つめ、みんなに見せながら自己紹介をしていく。 ③班で選んだナイスな自己紹介をクラスで発表する。 ④教卓に全員のジャがいもを集める。	○教員が班の発表をよく観察し、感じたことを声に出して表現することで、自己開示を促進する雰囲気をつくっていく。

	活動の流れ	留意点・教具等
	⑤じゃがいものまわりに集まり、自分のじゃがいもを探し出す。 (まれに、自分のじゃがいもを発見できない場合があるので、仲間が協力したり、教員が支援を入れる。)	○同時にあつまると教卓のまわりが混乱する場合があるので、班の順で探すなどの工夫をこらす。
ふりかえり・シェアリング	①自分のじゃがいもを見つけたら、班にもどり、じゃがいもを真ん中に置いて、気づいたことを交流する。 ②ふりかえり用紙に記入する。 ③全体でシェアリングする。 ④教員からのフィードバックを行う。 ⑤じゃがいもは子どもたちへのプレゼント	フィードバックの視点 ・自分の個性に新たに気づいたこと。 ・仲間の個性への新しい発見。 ・じゃがいもになりきるということ自体が、自分の自己開示になっている。 ・子どもたちが自分のじゃがいもを発見できたことの喜び 等。

〔参考文献〕 『人権のための教育』ラルフ・ペットマン著 福田弘訳 明石書店
『みんながってみんないい』國分康孝監修
『エンカウンターで学級が変わる 中学校2』図書文化社

【ポイント】

じゃがいもに自分を投影したものを開示することで、自己開示のハードルを低く設定している。しかし、自分を投影するという作業は、普通に自己開示をするよりは個性があふれ出るので、想像以上におもしろい展開になる。教員はモデリングにおいて、絶対に恥ずかしがってはいけない。教員自身の自己開示のためのモデリングが重要なのである。

子どもの気づき

- ・じゃがいもになりきって自己紹介するのは緊張したけど、できてよかった。同じ班の人はいろいろな夢を言っていておもしろかった。
- ・じゃがいもの特徴を探すのはすごく楽しかった。世界に同じ形のじゃがいもがひとつもないから、自分のじゃがいもは大切に食べたい。
- ・じゃがいもと同じように、観察したら友達のいいところがわかるという発見があった。

教員からのコメント

・先生方のじゃがいもが登場したときの子どもたちの表情・空気の流れの変化には驚きました。恥ずかしがったりしている生徒、どうしようかな…と困っている生徒などいろいろな生徒の姿を見ることができたと思います。この授業に取り組んでからは、班活動で会話が飛び交うような状態になりました。終わりの反省会なども、活発に意見交換できるようになりました。「じゃがいもになりきる」というだけの授業なのですが、このエクササイズの力というものを実感することができました。じゃがいもを家にもって帰って大事に育てるという子どももいて、じゃがいもをいとおしそうに見つめる子どもたちの眼が印象的でした。

*道徳の内容項目との関連： 1-(5) 向上心・個性の伸張 2-(3) 信頼友情
(担当：山本 良子)